

## 果樹カメムシ類の多発生にご注意ください！

チャバネアオカメムシやクサギカメムシなどの果樹カメムシ類（写真1、2）は、各種果樹の果実を吸汁し、果実の落下や奇形などを引き起こします（写真3）。

フェロモントラップを用いたチャバネアオカメムシの誘殺数調査の結果、県内6調査地点のうち2地点において、5月第5半旬ごろから誘殺数が急増しています（表1、図1）。今後の天候次第では果樹園への飛来が例年よりも早まり、防除が遅れると被害発生の恐れがあります。

果樹カメムシ類の飛来状況は地域間差が大きいので、果樹園地では飛来状況をこまめに確認し、飛来を確認したら速やかに防除を行いましょう。



写真1 チャバネアオカメムシ成虫      写真2 クサギカメムシ成虫      写真3 なし被害果実

表1 チャバネアオカメムシのフェロモントラップによる誘殺数

調査地点	5月第5半旬の誘殺数			調査開始から5月第5半旬までの総誘殺数			調査開始時期
	誘殺数	平年値	平年比	総誘殺数	平年値	平年比	
宇都宮市北部	49	42	116%	58	95	61%	4月第1半旬
芳賀町	385	55	<b>699%</b>	722	172	<b>419%</b>	
那須烏山市	0	1	0%	0	2	0%	
矢板市	5	9	53%	15	39	38%	5月第1半旬
宇都宮市西部	137	34	<b>405%</b>	161	132	<b>122%</b>	
佐野市	12	20	60%	52	67	78%	

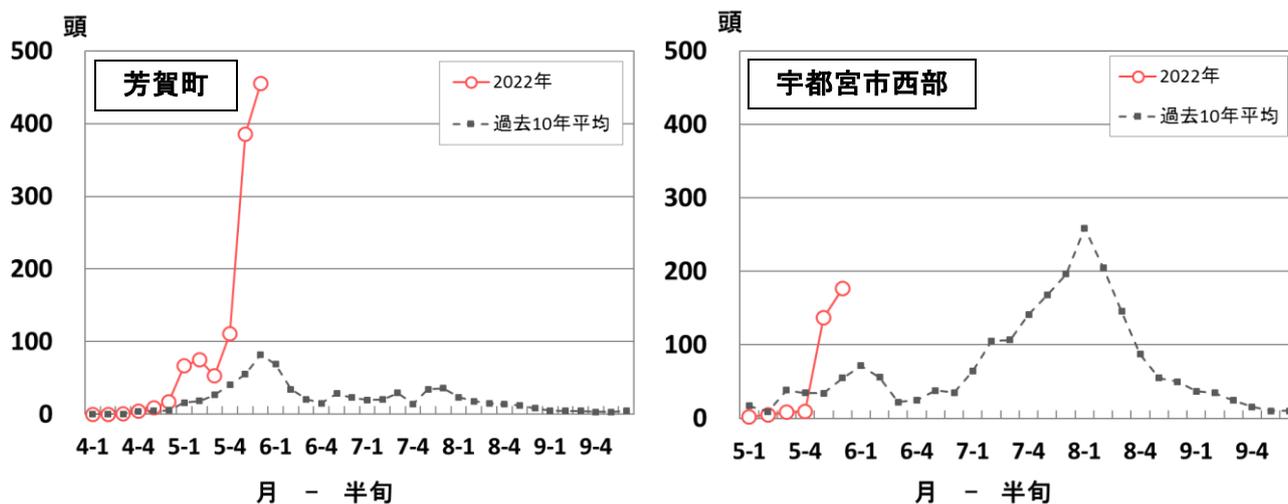


図1 チャバネアオカメムシのフェロモントラップ誘殺数の推移（縦軸は誘殺数）

## 1 防除対策

- 4 mm 目合以下の多目的防災網を隙間なく展張する。
- 有袋栽培では、袋掛けを早めに行う。
- 果樹カメムシ類は、園地外から断続的に侵入してくるため、ほ場をこまめに観察し、飛来が確認されたら表 2 を参考に防除を行う。残効期間の長いピレスロイド剤や、忌避効果の期待できるネオニコチノイド剤を効果的に使用して防除する。

## 2 注意点

- 山林に隣接するほ場や、過去に多発したほ場では特に注意する。
- 蒸し暑い日没時に果樹園への飛来が多い。
- 過度の薬剤散布は、天敵相を破壊しハダニ類やカイガラムシ類の多発生を招くので、果樹カメムシ類の飛来を確認してから防除する。
- 果樹カメムシ類は夜行性のため、夕方や早朝の防除が効果的。薬剤散布の際は、近隣への薬剤のドリフトに注意する。

表 2 カメムシ類に登録のある主な薬剤（令和 4 (2022)年 5 月 8 日現在）

作物名	農薬の名称	使用時期	希釈倍数	本剤の使用回数	系統	IRACコード
なし	スミチオン乳剤	収穫21日前まで (無袋栽培)	1000倍	6回以内	有機リン	1(B)
	スミチオン乳剤	収穫14日前まで (有袋栽培)	1000倍	6回以内		
	MR.ジョーカー水和剤	収穫14日前まで	2000倍	2回以内	ピレスロイド	3(A)
	アーデント水和剤	収穫7日前まで	1000倍	3回以内		
	アグロスリン水和剤	収穫前日まで	1000~2000倍	3回以内		
	テルスターフロアブル	収穫前日まで	3000~6000倍	2回以内		
	アクタラ顆粒水溶剤	収穫前日まで	2000倍	3回以内	ネオニコチノイド	4A
	アドマイヤー顆粒水和剤	収穫3日前まで (※)	5000~10000倍	2回以内		
	アルバリン顆粒水溶剤	収穫前日まで	2000倍	3回以内		
	スタークル顆粒水溶剤	収穫前日まで	2000倍	3回以内		
	ダントツ水溶剤	収穫前日まで	2000~4000倍	3回以内		
	モスピラン水溶剤	収穫前日まで	2000~4000倍	3回以内		
	テッパン液剤	収穫前日まで	2000倍	2回以内		
ぶどう	アルバリン顆粒水溶剤	収穫前日まで	2000倍	3回以内	ネオニコチノイド	4A
	スタークル顆粒水溶剤	収穫前日まで	2000倍	3回以内		
	ダントツ水溶剤	収穫前日まで	2000~4000倍	3回以内		
	テッパン液剤	収穫前日まで	2000倍	2回以内	ジアミド	28
りんご	スミチオン水和剤40	収穫30日前まで	800~1000倍	3回以内	有機リン	1(B)
	MR.ジョーカー水和剤	収穫14日前まで	2000倍	2回以内	ピレスロイド	3(A)
	アーデントフロアブル	収穫前日まで	2000倍	3回以内		
	テルスターフロアブル	収穫前日まで	3000倍	1回		
	アクタラ顆粒水溶剤	収穫7日前まで	2000倍	2回以内		
	アドマイヤー顆粒水和剤	収穫3日前まで (※)	5000倍	2回以内	ネオニコチノイド	4A
	アルバリン顆粒水溶剤	収穫前日まで	2000倍	3回以内		
	スタークル顆粒水溶剤	収穫前日まで	2000倍	3回以内		
	ダントツ水溶剤	収穫前日まで	2000~4000倍	3回以内		
	テッパン液剤	収穫前日まで	2000倍	2回以内		
				ジアミド		

※ ただし、露地栽培については発芽期から開花期を除く

詳細は農業環境指導センター（TEL 028-626-3086）までお問合せ下さい。  
 病虫害情報発表のお知らせは「農政部ツイッター(@tochigi\_nousei)」、  
 「農業環境指導センターホームページ（<http://www.jpnp.ne.jp/tochigi/index.html>）」  
 でもご覧になれます。

